



○経緯

平成 26 年度

7月 22日 第1回水車小屋活用ワークショップ開催（コーディネーター 岩手大学 広田純一教授）

9月 5日 第2回水車小屋活用ワークショップ開催（同上）

12月 22日 「遠野の景観」保存調査委員会（広田純一委員長）開催 修理工事計画の承認

平成 27 年度

4月 9日 文化庁国庫補助交付決定

5月 21日 整備計画策定・工事監修委託

7月 16日 「遠野の景観」保存調査委員会開催 修理設計の承認

9月 10日 着工

3月 25日 完成

○整備計画策定・工事監修

青森県工業技術教育振興会（八戸工業大学 月舘敏栄 教授）

○施工

オリカサジュウケン有限会社 代表取締役 織笠一成

○総工費

設計（整備計画）・施工 約 17,652 千円

○建築面積

22.72 ㎡

○構造

木造 平屋建て

# 山口の水車小屋改修工事完成披露会

平成 28 年 5 月 14 日（土）午後 2 時 30 分～

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 講話
- 4 搦き初め
- 5 地固め節
- 6 餅まき
- 7 閉 会



遠 野 市



# 山口の水車小屋が改修されるまで

2016.3 完成!



2015.9 改修前  
まわりの木を地元で切っていました。

## ○ 修理前の調査結果

- ・油汚れ等で利用できない
- ・屋根の傷みが激しい
- ・土台は腐れが生じている
- ・地盤が沈下し歪んでいる
- ・石積の水路が崩れている
- ・外壁材は傷みが激しくほとんど再用不可
- ・柱は半分程度再用可能
- ・小屋組は健全で再用可能

↓  
解体修理が必要

## ○ 修理方針

- ・地域で活用できる水車へ内部を改装（石臼設置、内壁張り、床の高さ変更等）
- ・見えないようにコンクリート基礎とし安定性を確保
- ・外壁に無塗装の新材を使用
- ・水輪は交換（解体すると組み立てられないため）
- ・安全避難が可能な耐震補強を実施



金色に輝く水車は今だけ



2015.10 解体

建物をすべて解体



2016.2 屋根葺き

遠野産のカヤと職人で葺いた



数年後（予想）  
風景に色が馴染んでくる

## 2014年のワークショップ



地域みんなで水車の活用について話し合いました。



2015.11 基礎工事

地下にコンクリートを打ち基礎を強化



2015.12 組立て

使える部材は再利用し、柱は国産のクリ材を継ぐなどした。  
外壁の大部分は再利用が難しく、国産アカマツの新材に交換。

## ○ 経年変化

- ・外壁に新材を使用するため、修理直後は真新しい印象だが、無塗装なので数年で色が馴染む。
- ・屋根は5～10年で差茅、15～30年で葺き替えが必要だが、根本的な修理はしばらく不要。